

## 平成 29 年度 記者懇談会（第 8 回）の記録

日 時 平成 29 年 11 月 28 日（火）午後 3 時 30 分  
場 所 水道庁舎 4 階 会議室  
記者数 6 人  
同席者 飯川副市長、天野副市長、総務部長、経済部長  
次 第 1 シンガポール・台湾（台北市）における観光プロモーションの  
報告について  
2 その他について



### 1 シンガポール・台湾（台北市）における観光プロモーションの報告について

#### 説明内容

（市長）

それでは、11月に行ってまいりましたシンガポール及び台湾、台北市で行いました観光プロモーションについてご報告をさせていただきたいと思っております。

日程につきましては、かねてご報告したとおり、11月5日から11日までの日程でございます。参加メンバーは私のほか、観光協会の大川常務理事など総勢5名で実施してまいりました。

訪問先は、お手元の資料にありますように、シンガポールが6社、台湾が7社、旅行会社計13社と。それから、シンガポールにあります北海道の出先機関でありますASEAN事務所も訪問をいたしました。内容といたしましては、観光パンフレットあるいは旅行商品のパンフレット、さらには冬バージョンを加えたPR動画等で市のPRをしてきたところでございます。また、具体的な観光商品を提案してきたということで、平成29年度、今年の冬以降のツアーに組み込んでもらえるようお願いをしてきたところでもございます。

また、今回初めて、新たな取り組みでございますが、一般消費者向けということで、台湾最大の日本情報紹介サイトであります「ラーチーゴー」のリアル店舗であります「Michi Cafe」、これちょうどイメージとしては、札幌の裏参道にあるような若者のよく集まるような小さなカフェですけれども、そこで11月9日、10日の両日とも19時30分から約1時間程度、PR動画をはじめ観光の取り組み紹介、あるいは岩見沢市に関するクイズ大会、そして、日本酒「ゆあみさわ」の試飲等を行なってまいりました。また、イベントに参加した以外の方にも、店舗で岩見沢市のPR動画を流すとともに、「ゆあみさわ」の試飲、あるいは観光パンフレットの配付を行ってきたところでございます。

このイベントにつきましては、2日間実施をしてきたところでございますが、事前募集で50名の定員がすぐ満杯になるということで、北海道あるいは岩見沢市への関心の高さが伺えたところでございます。イベントでは、20代から30代の方の参加者が多く、岩見沢のワイナリーやグリーンランドのジェットコースターのVR、バーチャルリアリティを実際に体験してもらい、岩見沢への誘客へとつなげるとともに、岩見沢の魅力をSNSを通じまして広く発信していただくことも期待できるというふうに考えております。

シンガポール、そして台湾の方はリピーターが多く、北海道における新たな観光資源を求めているようでございまして、岩見沢市のメープルロッジやバラ園、ワイナリーなどの観光施設のほかに、当市で体験できる野菜や果樹などの収穫体験、冬期間のハウスにおける花摘み体験、さらには雪遊び、グランピングなどに対して非常に高い関心を示していただきました。多くの旅行会社からは、来春以降のツアーに組み込むこと。更には、岩見沢市は札幌や千歳から近く、さらには旭川や富良野、美瑛などに行く際にもアクセスが、とても良いという、その立地の良さを活かして、ツアーの昼食等も岩見沢で行うことなども検討したいというような具体的なお話もいただけてきたところです。

今後につきましては、第三種の旅行業の免許を取得いたしました岩見沢の観光協会、あるいはコンサルティング契約を結んでいるJTB北海道が、今回訪問いたしました旅行会社とツアーに組み込むための具体的な協議を進めることとしております。

以上でございます。

## **質疑応答**

### **(北海道新聞)**

今回、シンガポールと台湾に行かれましたけれども、2つの都市で興味を持つ観光素材に違いはありましたでしょうか。

### **(市長)**

ある程度共通するかと思えます。特に台湾は2回目でしたので、実際のところ昨年訪れたところで、今回の訪問を待ち構えていたところもございます。それで共通するのが、体験観光でしょうか。例えば野菜や果樹の摘み取り体験もそうなんですけれども、冬の間ハウスの花摘み体験ですとか、それを活用した商品ですとか、単純な雪遊びもそうですけれども、とても身近に楽しめるということと、メープルロッジはリニューアルをかけていますけれども、富裕層の方に旅行商品として売っていきたいというようなお話もいただけてきたところです。北海道に来られる方、今回ラチャーゴの「Michi Cafe」でアンケートも取りましたけれども、北海道に是非また行きたいという方も多かったですし、若い方を中心にワインとか、そういった魅力も感じているというようなお話もいただきましたし、観光のツアーに商品として盛り込むには9カ月くらい前からPRをしていくということですので、今年の冬は無理でしょうけれども、来春以降に何とか実現したいんだというような言葉をいただきました。実際に富良野とかは多くの方がいらっしゃいますけれども、昼食会場に困るとかの事例もございます。札幌でお泊りですけれども、札幌はショッピングでと割り切っているというところもありましたし、そういった意味では多様な体験というのを是非行きたいんだというお話でございました。あとグランピングも、とても関心を持っていただきました。

### **(プレス空知)**

メープルロッジをリニューアルしていますが、これに加えてさらに市内の観光スポットをテコ入れしなければならない、例えばさらに、バリアフリーに力を入れるとか、トイレ施設を強化しなければならないとかというようなことは何かありましたか。

### **(市長)**

ツアーの内容をまず充実していくことになろうかと思えます。今回はこちらからの提案だけではなくて、向こうのリクエストに応えるような、そういうツアー商品の開発などがこれからメインになってくるのではないかなと思えます。ポテンシャルを生かしてということになるのかもしれないけれども。

### **(HBC)**

聞き逃したんですけれども、市長の説明の最後の方で、観光協会が何かを取得したということなんです。

### **(市長)**

第三種ですね旅行業の取扱免許だったかな。

### **(HBC)**

それはどういったものなんですか。

### **(市長)**

ツアー商品を自ら作って売り込むことができるということ。

**(HBC)**

観光協会が主体となって。

**(市長)**

はい。事業主体となって。それを超えるものについては JTB 北海道とコンサルティング契約を行っているので、その両者が連携をしてというようなことになります。

**(プレス空知)**

これ、取得はいつでしたっけ。

**(経済部長)**

今年の 8 月でございます。

**(プレス空知)**

もし可能であれば、こういったトピックスもリリースがあればいいかなと。

**(市長)**

観光協会でもリリースしていると思いますが確認します。

## 2 その他について（記者からの質問）

### **質疑応答**

**(北海道新聞)**

二つあります。まず一つは、庁舎建設についてです。広報紙にあるとおり現在地ということで、先月に発表されました。その間 1 か月ありました。市民から市のほうにどんな意見があったのか、今後の周知、どんな機能を盛り込むかについて、今後のスケジュールなど今わかる市民の意見やスケジュールなどを教えてください。

**(市長)**

10 月 27 日の特別委員会で報告をしたところですが、現在まで具体的なお意見等は私も聞いていませんし、市役所の方にもきていないところです。今後ですが、現在基本計画の作業を進めておりまして、2 月を目途に策定作業を終えて、新年度はその次のステップ、基本設計等々に入るということでスケジュール的には考えております。

**(北海道新聞)**

変更はないのでしょうか。

**(市長)**

変更なしです。

**(北海道新聞)**

二点目なんですが、市の広報で JR 問題について初めて特集されましたね。室蘭線についての色々なデータを提供しつつ、特集の最終ページには追分回りで千歳空港に行くこともできるよという具体的な提案もされています。市長の発案かどうかはわからないのですが、このような市民周知をされたねらいや意図、今後どんな PR をやっていくのかなど現時点でわかることを教えてください。

**(市長)**

前にお知らせしたとおり、室蘭線の利用促進策について、3自治体でいろいろ協議をしていくというところまでのご報告したと思いますが、実際に室蘭線の現状がどうなっているのか、特に室蘭線は物流機能も果たしている路線でございますので、旅客だけではないという重要性も含めて市民の皆さまに知っていただく機会をつくろうということで、内容の調整につきましては、JR北海道とJR貨物の方も含めて今、協議をしているところです。それで日程だけは先に決めさせていただいて12月20日に行うということをごさいますして、その後、内容が固まれば、即座に市民の皆さまに周知ですとか、あるいは商工会議所とか、JAさんとか個別のご周知をさせていただきたいと思っていますし、広くポスター、パンフレットの掲示、配布なども当然のことながら行っていきたいというふうに思っています。

**(北海道新聞)**

それはタイトルの的には市民意見交換会とか、どんなイメージで。

**(市長)**

タイトルまではそこまでは聞いておりません。

**(北海道新聞)**

市民向けの説明会は初めてになるのですか。

**(市長)**

はじめてですね。

**(北海道新聞)**

場所は決まっているんですか。

**(飯川副市長)**

広報に載っていますけれども、自治体ネットワークセンターです。

**(市長)**

20日の午後3時から予定しております。

**(北海道新聞)**

自治体は3市町と、あとどこが来ますか？JRの北海道と貨物が来る。

**(飯川副市長)**

今調整中です。

**(市長)**

調整が整いましたらすぐお知らせする予定です。

**(北海道新聞)**

JR北海道と貨物に打診しているんですね。他にはございますか？道もですね、国はありますか？

**(市長)**

道はありますけれども、国はまだ。室蘭線を学ぼうというような趣旨と言いますか。

**(北海道新聞)**

関連して、同じ空知の近隣の札沼線で少し動きがありまして、現状維持が極めて困難だというような認識で沿線町長が。存続を望みつつも困難だということがありました。

た。そういった空知の他路線の動きなどは、松野市長は気にかけてらっしゃるのでしようか。

**(市長)**

他路線は札沼線がちょうど費用負担、上下分離の問題も含めて、私も報道で知る限り個別で関係町長さんにお話を聞いたわけではないですけども、そういう動きがある。あとは、深川にしる滝川にしる、その後具体的なことについては私は承知していませんね。

**(北海道新聞)**

室蘭線は胆振管内にもまたがっている路線です。ただ、今のところ、胆振側の首長との、この問題についての集まりをまだ開けていない。

**(市長)**

私どもが開いていないというのではなくて、私どもとしては、安平町さんを窓口にして、連携を取ってやることも話はしていますけれども、胆振管内の方は確か、12月の中旬過ぎに、胆振管内で一定のお話合いが持たれるということも聞いています。胆振管内は、実は今まで、道庁さんが入っての意見交換なんかもされていないという状況でありますので、それぞれお考えがあるところで。私どもが首長懇談会を2回実施して後は、事務レベルで基本的ないろいろな情報交換をやっていると。その中で今回の取り組みも岩見沢で実施をしましょうという方向性が出たと。

**(北海道新聞)**

そういう話し合いを進めたいという思いは。

**(市長)**

それは存続を前提として、どんなことができるのか。上下分離方式にしてもいろいろ課題があるわけですから。北海道市長会の中の意見を聞いていても、道が主体的に思いきった路線毎の枠組みを考えたらどうだかという意見が出ていましたけれども。できるだけ情報共有を図る、あるいは、共通の認識を少しでも深めてもらうという趣旨になろうかと思えます。

**(北海道新聞)**

市民にですね。

**(市長)**

住民にです。

**(毎日新聞)**

昨年11月18日にJR社長が13路線について、維持困難とかいろいろ打ち出したんですけども、1年経っても室蘭線は表面上、沿線の3市町ではいろいろとやっていますけれども、JRとの話し合いが進んでいるとは見えないんですけども。

**(市長)**

その都度、首長懇談会にJRの方に来ていただいていますし。

**(毎日新聞)**

もうちょっと、何かこちらとしては、3年したら資金ショートするという会社に対して動きが遅いのはどういうところにネックがあるのですか。

### **(市長)**

それは、具体的な費用負担ですとか、具体的な維持の仕方の具体論にまだ入っていませんから。全体で資金ショートは確か、13路線で150億円程度の資金ショートというのが発表されていますけれども、路線毎でまだ公表されたわけでもないですし、札幌線については、どこどこまでだったらどれだけという数字が出て、それを含めての方向性が確認されたということなんでしょうけれども。全国的にも大きな課題でして、全国でもそのJR北海道と同じような事例が先行して出ているのも事実でして。実は先日、全国市長会の中で地域公共交通を考える会合がありまして、私も委員になっているんですけども。そこに参加して来たんですけども。ある、本州の上下分離方式をいち早くやったところの首長さんのお話でしたけれども、確か7つの自治体で、上下分離方式をして、年間の費用負担が10億円を超えと言っていましたかね。国と県で1億円ずつですけども、残り8億円は7つで分割したら1億円以上負担しなければならない。それを出せば残り続けるんですけども、出し続けることが本当にできるのかどうか。それは北海道全体にも共通することです。

### **(毎日新聞)**

先ほど、道を主体的な役割にというお話がありましたけれども、JRもそうなんですよけれども、国も沿線自治体も上下分離にしても費用負担にしてもなかなか財政的には厳しいわけで、その中で、道が前面に出て仕切るというのはどうかと思いますが。

### **(市長)**

国の方でも、JR北海道問題に対する一定の方向性を出すというのが、その都度お聞きしている話ですし、単純に費用的にいろんな課題があるわけですけども。利用促進策と一言口でまとめるのは簡単なんですけれども、じゃあ、観光路線になるかという、あくまでも基本的には生活路線なので。観光路線で収益を上げて維持するという構図は道内はなかなか難しいんだという認識は、実は個人的には思っているんですけども。その中で、どの程度の負担が発生するのか、どのような維持の仕方があるのか、これからですね。ただその前段として、どういう状況にあるのかということに住民の方にも知っていただくような、端的に言えば「JR室蘭線の現状」ですね。

### **(毎日新聞)**

バス路線が10月1日から見直しをかけて1か月くらい経ちますけれども、見直しについての、利用者からの反応とか利用状況とか、その辺の変化は？

### **(市長)**

路線毎のループ方式を取ったところでは、とても使いやすくなって、利用が増えたという路線も聞いていますし、全体のことについて細かく私が聞いているわけではないですけども、そのような評価をいただいているところもあるということは聞いていますけれども。ただ、まだ10月1日から2か月経っていないですけども、そこは状況をいろいろと、今後把握しながら、よりよい路線の形成に向けて努めていきたいなと思っています。

**(プレス空知)**

まちなか循環バス、それとデマンド交通のここの部分がですね、進捗、特に春から始めたいという話も説明の時にあったんですけども、今12月に入るといところで言えば、残り3か月、4か月といところなんですけれども、その具体的な中身といかシステムといのはどの程度決まっていますか。

**(市長)**

まちなか循環バスについては、できるだけ低料金でご利用いただけるような環境整備に向けてどういう事業実施がいいのか、そのフレーム作りを今、一生懸命頑張っているところでございます。オンデマンドについては、どういう区域設定にするのかということと、ハブアンドスポークの考え方をどこを拠点にして考えるのかとか、いろいろなことの課題があるので、その点についてはまだまだ検討中なんですけれども、できるだけ早い時期に実施したいというのはやまやまです。

**(プレス空知)**

デマンドでいけば、実証実験を行った、北村中小屋ですとか大願ですとかあちらの方は私見で構わないんですけども、ほぼ8割、9割。

**(市長)**

その時の実証の結果も、とても好評でして、バスの空白地域をどういうふうにするのかということでは、デマンド交通といのは、とても良いやり方だなと思っています。

**(飯川副市長)**

多分あそこの2地区であれば、スムーズな実施はできるのではないかなと思っていますけれども。

**(プレス空知)**

ということは、イメージで言うと、まちなかの方はフレーム作りから、さらに発展させていこうということなんでしょうけど、デマンドに関しては、実証を行った地域プラスアルファをどこまで展開するのかというイメージでいいんですね。

**(市長)**

バス路線を再編したので、その利用状況なども、使い勝手なども見ながらということ。

**(プレス空知)**

課題は、値段？

**(市長)**

料金設定と費用負担ですよね。料金だけで賄える事業にはならないと思うので。

**(プレス空知)**

いところできくと、今日午後、福祉施策検討委員会からの答申があって、敬老バス事業に関して一旦廃止をして、新たな施策を創設してとい、それとの整合性は？

**(市長)**

その事業自体は旧岩見沢市だけに適用している事業なんです。おっしゃったような北村大願とか、もともとバスが無いところにバス券の交付といっても使えない事業な

ので、使いたい時に社会参加の足をバス路線とは別に確保するための充実を図りたいという趣旨だと僕は受け止めています。

**(プレス空知)**

答申であったのは、旧岩見沢市の制度だけではなくて、北村、栗沢の制度も含めた事業を一旦廃止して、新たな市民の足に繋がるようなものを考えてはどうかというような話だったんですが。

**(市長)**

公共交通で最近よく話題になっているのは、「客貨混載」とかね、いろんな分野も実は出てきているんですけども、実際に岩見沢は栗沢地区だと福祉バスの運行があったり、栗沢から幌向に行く市営バス、それから北村地区がスクールバスの混乗という。

いいものを生かしながら、あるいは思い切って変えていくとか停留所の問題だとかも含めてですね、そこはしっかり考えていきたいと思っています。

**(プレス空知)**

最後に確認ですけれども、循環バス、デマンド交通どちらが4月からだったかな、もう一つが遅くない時期にという話でしたけれども、そのスケジュールは？

**(市長)**

30年度できれば早く整えて早く実施したいのは、やまやまなんですけれども、30年度中には実施したいということです。

**(プレス空知)**

前の話だと4月というのが一つあったのでは？

**(市長)**

4月に実施したいというのを申し上げましたけれども、まだまだ協議、課題を整理しなければならぬ、これから議会が始まって予算編成しながらという作業になりますけれども。今回、福祉施策等々の検討もしていただいたので、できるだけ早い機会にそういった種々の実現ができるような体系を作りたいと考えています。今の段階で4月にやるというのはお約束できないという状況です。

**(プレス空知)**

4月イコール4月1日ではないんですけれども、ゴールデンウィーク前までにはと受け止めていたので、今の年度中にはとなると、ちょっと後退したのかなと、スケジュールがずれ込んだのかなというところを確認させていただきました。

**(市長)**

受け取り方ですけれども、早く実施したいなと思っています。

**(プレス空知)**

その気持ちは伝わってくるんですけれども。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)